NIE特集

Newspaper In Education

毎月第2・4火曜日発行

どきどき小学生

中野栄小

学校名　仙台市立中野栄小学校　　校長　斎　亘
所在地　仙台市宮城野区栄3の12の1　　児童　558人
電話　022（258）8080

たなばたのこと
1年・いばしおり

口がパクパクするお面
2年・小幡青空

海で見たカブトムシ　3年・長谷川もえ

うきうきキャンバス

お菓子の家・お菓子を食べたら貯金してネ！　4年・板橋広奈

ビー玉迷路
5年・藤原茶胡

水墨画「海老」
6年・黒沢涼介

地域発展の礎を築いた人々に迫る！

水道整備に力尽くす

私たちの住む中野栄地区は、仙台市の東部にあります。地域発展の礎を築いた人々の歴史を調べていたとき、「地元を語る、昔のこと、開発への思い」（中野の今昔を語る会編さん）という本に出会いました。私たちは、本の発刊に大きくかかわった中野の今昔を記録する会会長の伊藤久太郎さんを訪ねました。

知り隊

昔の資料を見せていただきながら、伊藤久太郎さんに取材

住宅が増加 駅も開業

久太郎さんは昭和3（1928）年、（旧）宮城郡高砂村（現在の栄地区）の生まれで、ずっと農業に従事した人です。自宅を訪ね、昔の資料を見ながらお話をうかがいました。

中野栄地区は1・5㍍も土を掘ると、水がわき出す場所でした。しかし「豊富にわき出る水は塩分と鉄分が多く、飲料水にはならない。作物にも適さない。きれいな水を確保することが重要で、地域の発展には欠かすことのできないことだったんだよ」と説明してくれました。

昭和29（1954）年ごろ、この地域に水道はありませんでした。各家に井戸はあるものの、飲めるような井戸水が少なかった。用水路の水を使用していた家庭もあったと言います。

蛇口をひねれば水が出るのが当たり前の生活を送っている私たちには想像もできません。そこで有志が集まり、仙台市や国に働きかけて簡易水道を設置してもらったのだそうです。

毎日の仕事以外にもこんな仕事をしたなんて、大変だったろうなと思いました。その中心になったのが当時の町内会会長の瀬家新一さんや、取材を受けていただいた久太郎さん、そして地元の関山徳治郎さん、開山梅蔵さんという人たちでした。

水道の事業が完成したころ、民家も50戸ほどだったこの地域も、水質のよい水が出るという話が各地に広まり、みんな宅地を購入してどんどん家が建っていきました。やがて、土地の区画整理が進み、（旧）国鉄の仙石線の駅を誘致する運動が展開されます。その苦労が実り、昭和56（1981）年4月、「中野栄駅」が開業しました。昨年、隣接する地区に大型商業施設ができ、買い物もとても便利になりました。

◇　◇

久太郎さんは言います。

「中野栄に住んでいる人たちが、ここに住んで本当によかったといってくれるよう、みんなで頑張ってきた」と、先人の方々の熱い思いを、今度はわたしたちが引き継いでいく番だと強く感じました。

文・千田奈央、菅野さに（6年）

教え隊　ニコニコ栄っこ会

学年縦割りで親ぼく

昨年開かれた「ニコニコ栄っ子会」

中野栄小では、毎年11月と2月の2回、「ニコニコ栄っこ会」を行っています。1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生が縦割りペア学年になり、各教室に分かれ、みんなで考えたゲームをしたり、物作りをしたりして親ぼくを深めます。

昨年は、集会だけでなく給食を一緒に食べながら、いろんな話題で話に花が咲きました。この行事を通じて栄児童会の一人として、思いやりのある活発な児童会をみんなでつくっていこうという気持ちが大きく育っています。

文・千葉梨緒里（6年）

言い隊

■ 環境問題はみんなで ■

地球温暖化は今、地球上の人々がかかえる大きな問題です。森林伐採、排出ガス、ごみ問題などが大きな引き金になっています。私たちはそのことを知りすぎているにもかかわらず、今この瞬間にも生産の名の下に排出ガスを出し、森林を伐採し、環境を大きく破壊しています。

私たちにとって、物を作り出す機械や木材は必要であり、生活していれば、ごみも出ます。でも、一人一人の努力で地球本来の環境を少しでも取り戻すことができると思います。「自分はいいや」ではなく、「みんなのために少しでもがんばろう」という気持ちを持つことが大切だと思います。

（6年・土屋麦子）

■ 見守り散歩隊に感謝 ■

私は中野栄地区に住みはじめて6年になります。この地区に来て感じることは、安心して登下校できることです。地域でつくる「見守り散歩隊」の方々が毎日通学路にいてくれます。「おはよう。元気に行ってきてね」とか「気をつけてね」と声をかけてもらえると、見守っていてもらえるという安心感や地域全体のあたたかさを強く感じることができます。

ここは改善点だなと感じることもあります。中野栄駅にエレベーターやエスカレーターがないことです。お年寄りや荷物をたくさん持っている人などにとってはとてもつらいのではないかと思うのです。問題点を一つ一つ解決できたらいいなと思っています。（6年・渋谷友美）

編集後記

「どきどき小学生」の取材で、私たちの地域について調べるとき、どんな発見があるのか、とてもわくわくしました。

今回の取材を通して、私たちのふるさと・中野栄をもっともっと大切にしようとする気持ちになりました。

用水路を流れる水が、その昔、飲み水などの生活用水に使われていたことや、簡易水道をつくるために地域の人々が一生懸命だったことなどを知り、自分たちの地域を新しい目で見直すことができました。

題字デザイン　千田奈央（6年）

△編集委員△小野寺陳樹、千田奈央、鈴木栄七、渥美奈子、藤井彩人、黒沢涼介、千葉梨緒里、渡辺良美、菅野よさ、秋葉輝、石黒翠（6年）

△指導教諭△栗原研也、山内明子

次回（11月10日）は榴岡小（仙台市）と、槻木小（宮城県柴田町）です。